



教科×教科

第04号

踏み込みと振り返り！
教科横断型授業特集2

共創の振り返り①

吉岡先生（化学）

JKPを振り返ってみて、このワクワクした1年でした。日常的な化学の授業では、オープンエンドで終わることが少ないので、他教科とコラボすることにより、いつもとは違う授業展開になります。教員にも展開が読めなくなりますが、生徒の反応が面白かったり、予想外の力を発揮したりすることもありました。いつも以上に生徒の主体性を引き出す授業を作ることができた、JKPの活動でした。自分の授業の枠を飛び出す。だけど、それがおもしろい。今後はアーリーアダプターとして、共創していきましょう。

共創の振り返り②

原コーディネーター

当初は自分のもコラボ案を考えたが、先生の中から色々なアイデアが出ているのが面白かった。教科横断の授業を通して、ものの見方考え方、勉強の楽しさが伝わってほしい。そういうテストがあってもいいと思った。学問に分かれるのではなく、生活の中の問題はごちゃ混ぜなので、そういった問題を作るのも面白いと思う。

踏み込みと振り返り！

今年度の隠岐島前高校では、教員による3つのプロジェクトが行われてきました。一つはこの授業共創プロジェクト（以下JKP）、そして踏み込みプロジェクト、振り返りプロジェクトです。今回は、JKPの「踏み込み」と「振り返り」についてリーダーの吉村先生と考えます。

JKPでの踏み込みについて（吉村先生）

JKPでは、教科×教科の授業を行っていく事により、生徒の学習意欲が高まるのではないかと仮説のもとで活動をしてきました。教科×教科の授業の難しさは、まず、授業同士の接点を見出していく事です。JKPでは今後実施する教科の単元や題材においてコラボできそうな教科をピックアップして授業を計画したり、すべての教科のシラバスを見ながら教科同士のつながりを探してコメントを入力する活動を行って来ました。多くの先生方が参加してくださり、コラボ授業を13回実施しました。この中でも特に、地理総合×イタリアからの留学生の授業は踏み込んだ授業でした。今まで留学生と授業を作り上げた経験がなく、英語の先生やALTと協力しながら一つの授業を作り上げました。授業を作っていく中で、留学生の言った、夏に雪ががふるという発言には驚かされました。イタリアでの異常気象の実体験を聞くことができ、地理の今後の授業にも生かしていけることがたくさんありました。踏み込んで、コラボすると新しい発見を得られる、これは間違いのないですね。

JKPを振り返って（吉村先生）

JKPで大切にしたいことは、「楽しくやる」ということです。押し付けられた授業共創では、持続可能ではないので、みんなが取り組みやすい雰囲気づくりに心がけました。このプロジェクトで、やはり教員の本質は「授業」だと実感しました。授業の在り方や視点、自分の視野が広がりなど。授業で生徒を引きつけることの大切さを改めて感じました。授業を大切にしたいという思いが強くなったこと、生徒にも授業を大切にしてほしいと思います。

教科横断型授業の実践2



科学論文を読み解こう

2022年のNature Neuroscience誌に掲載された、「高齢者の記憶を保護・増強する技術の開発」に関する論文を読み解きました。論文中の実験結果に関する記述を8つのパートに分け、それぞれ3人程度のグループで関連する図・表を分析しながら内容を翻訳し、要点を箇条書きにまとめました。この活動により、科学論文は「専門用語の理解」と、論点の根拠となる「データや図・表」の理解が鍵である事を体験を通して学びました。



歴史から見た日本の英語教育

日本人は英語をいつから学ぶようになったのか、それはなぜか？当時の日本人にとって英語ってどういうものなのか？戦時中は英語は使われていたのか？今英語を学んでいる高校生たちは、どうして英語を学んでいるのか？そういった疑問をみんなで見つめながら、意欲的に英語を学べる生徒を増やしたい！そんな気持ちで授業を作ってみました。



ボディメカニクスを意識した介護

体を動かすことのプロフェッショナルは体育の先生！家庭科の生活と福祉と体育（レスリング）の先生がコラボして、よりよい介護をするための技術を学びました。介護をする際に、体がどのように動いているのかを意識し、より少ない力で人を動かすことができれば、体への負担がぐっと減ります。今回は、レスリングの動きの中にあるボディメカニクスについて学んだうえで、介護の動きにどのように生かすのかを考えました！

特集記事

今回も教科横断型授業の実践の特集です。今年度のコラボの集大成！英語×生物の授業では論文を読みます。また、歴史総合×英語、家庭×体育など新しいコラボ授業を考えました。実に面白い！

JKPの振り返り③

飯野先生（日本史）

他教科とコラボして、新たな視点で授業づくりができた。消費者教育で企業の見方を商業の先生から学び、一つの事例を違う教科の視点を取り入れた授業づくりができた。授業を作っていく際に、準備過程で何が生徒にじっくりくるのか、切り口や問の立て方の工夫が必要だった。また、接点のなさそうな生物とつながりを持ってたことも収穫だった。来年度もほかの授業で、新しい視点で取り組んでいきたい。

JKPの振り返り③

清山先生（世界史）

他教科と一番コラボしたのが清山先生。しかし、自分主体はの授業は1回だけ。歴史そのものを学ぶことより、世の中のことを深く知るために歴史が必要になる。いろいろな教科に関わることができ、カリマネを意識した1年だった。他教科と積極的に授業づくりを行って、歴史的なものの見方を生徒に学んでもらい、最終的には歴史の授業の面白さを感じられるようになってほしい。

JKPの振り返り④

曾田先生（家庭）

家庭科の内容は、他教科と教科横断しやすい内容だと思います。思いつきやすい分野だと、食物分野と化学や、保健、家庭経済分野だと公共といった具合に、様々な部分で関連することが分かります。しかし、教科・科目の関連性は見つけやすいですが、それを各教科の目標を達成するように授業として組み立てていく事は、時間と労力が必要だということが改めて分かりました。しかし、JKPに参加して、話し合いながら考える作業は自分の力になったと思います。今後も他教科の視点を生かして授業づくりをしていきたいです。